

第2回

平戸市総合戦略策定委員会 会議録

と き：平成27年7月13日（月）13：30～15：25
ところ：平戸市役所4階第2委員会室

○日時

平成 27 年 7 月 13 日（月） 13：30～15：25

○場所

平戸市役所 4 階第 2 委員会室

○出席委員（氏名 50 音順、敬称略）

赤木、荒木、石川、竹田、田中、田渕、寺田（勝）、寺田（孝）、富崎、豊増、
松尾、松山、行成

○欠席委員（氏名 50 音順、敬称略）

西川、古川

○次第

1. 開会
2. 報告事項
 - ①会議録の確認について
3. 議事
 - ①将来人口・市民アンケートについて
 - ②人口減少克服・地方創生に向けた意見交換
 - ③その他
4. 閉会

○会議資料

- ①まちづくりに関するアンケート調査票（15～18 歳用）
- ②まちづくりに関するアンケート調査票（市民用）

○参考資料

- ①《他市町村計画案》牧之原市まち・ひと・しごと創生総合戦略【抜粋】
- ②《他市町村計画案》京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン
- ③《他市町村計画案》塩尻市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(13:30 開会)

●司会

定刻となりましたので、ただいまから第2回平戸市総合戦略策定委員会を開催させていただきます。

本日は、西原委員様、古川委員様の欠席の申し出がございましたので報告させていただきます。

また、策定委員会委員の所属等の変更について、ながさき西海農業協同組合の田渕敏視委員が、この度、ながさき西海農業協同組合代表理事組合長に就任されましたので、その旨ご報告させていただきます。

続きまして、人口ビジョン及び総合戦略の策定業務の一部を専門の業者に委託することが決まり、その委託先の株式会社九州みらい研究所より、本日2名出席しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、報告事項に入らせていただきたいと思います。委員会の議長は、平戸市総合戦略策定委員会設置要綱第6条の規定により会長が行うこととなっておりますので、石川会長よろしくお願いいたします。

■会長

では、次第に基づきまして報告事項①会議録の確認ということで、前回の会議録の確認の方をお願いいたします。

◎事務局

事務局から説明させていただきます。

まず、本日の資料の確認を行わせていただきたいと思います。7月2日にお送りしております第1回平戸市総合戦略策定委員会の会議録は、皆様お持ちでしょうか。

本日の配布資料として、1枚ものの会次第、ヒアリングシートのまとめ、まちづくりに関するアンケート調査が2種類、15歳～18歳用と市民用があります。さらに参考資料の①～③ということで、京丹後市、塩尻市、牧之原市の総合戦略をお配りしております。それから、新規高等学校卒業者の就職状況、江迎公共職業安定所からご提供いただきました資料です。皆様よろしいでしょうか。

それでは、会議録についてです。第1回目の委員会につきましては概要説明が主でしたが、2回目以降は総合戦略に向けての具体的な議論がなされてくるかと思っていますところでは。

事務局といたしましては、会議については原則公開とさせていただき、会議録についてもホームページで公開したいと考えているところでは。なお、その場合、平戸市情報公開条例及び平戸市個人情報保護条例に照らして、公開することが適切でない場合は一部非公開といたしまして、公開する内容につきましては、委員の皆様にご確認を取らせていただきますので、委員会では忌憚のないご意見をお願いしたいと思っていますところで

す。

公開に際しましては、委員の発言は誰々委員という氏名を表示するのではなく、委員という表記をするように考えているところです。会議録の公表の形式につきましては、見る方のことを考慮して、議論の中心的部分を公開する要点筆記という形式で考えておりました、第1回目の委員会の内容等について取りまとめたものが、ご覧いただいている会議録です。会議録をご覧いただいて修正がある場合とか、ちょっと表現がおかしいという場合につきましては、今週中、17日金曜日までに事務局までご連絡をいただければと思っているところです。会議録につきましては以上です。

□委員

会議録の情報公開とともに委員名も公開されますか。

◎事務局

委員の名称も公開ということで、委員の名前は公開ということで考えております。

□委員

公開されるんですね。一応それを皆さんの承諾は冒頭に取られないんですか。名前を出していいですかとかは。

◎事務局

説明が遅れまして申し訳ありません。一番最初の会の時に今のように申し上げておけば良かったのですが、事後になりましてご迷惑をかけております。15名の委員の皆様は一覧表の表示はさせていただきますが、会議録につきましては委員の名前は出ません。委員という名前のみで、個人名は付けません。ですから、誰がこれを発言したかというのはわからないという形になっております。そういうことでご了承をいただければと思っております。

■会長

委員の名前は別途公開して、議事録の方には委員という形でしか出ないということですね。誰がどういう発言をしたかというのは、名前として出ないということですがけれども、一応このあたりの了解も含めて今認めていただければと思いますけれども、前回の議事録の確認と合わせまして、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

■会長

ではこれで2つ目の報告事項を終わらせていただきます。

では議事に入らせていただきます。
まず、今日は議事がある他を含めて3つ用意されておりますが、一番目、将来人口・市民アンケートについて、これは事務局の方からご説明をお願いします。

◎事務局

議題①将来人口・市民アンケートについては、業務委託先の株式会社九州みらい研究所より行いますのでよろしくお願いいたします。

【①将来人口・市民アンケートについて】の説明

■会長

ただいま、株式会社九州みらい研究所のスタッフの方から、将来人口に関して、また市民アンケートについて説明していただきました。ご質問等ありましたらお願いいたします。

□委員

市民用のアンケートで20歳～59歳までという年齢を設定されたことの意図を教えてくださいたいのですが。

◎みらい研

私の方で答えさせていただきます。20歳～59歳とさせていただいた意図につきましては、国も同じく総合戦略というのを作っており、その際の数値目標等の設定が59歳までを対象とする設問があるため、そこで区切らせていただいております。当然ご質問の趣旨は、なぜ高齢者が入っていないのかということだと思っておりますけれども、そこをないがしろにするというわけではないのですが、今後の成長戦略を考えていく上で、こういった方たちの考え方を取るのが国の考え方になっておりましたため、平戸市さんでも今回そうさせていただきました。

■会長

おそらく20年、30年先のビジョンを描いてということなので、その時の高齢者を含めてということで、このようなアンケート対象になったかと思えます。他に質問ありませんでしょうか。

□委員

せっかくアンケートをしていただくということは結構なことですが、一市民の考え方はそれぞれまちまちだろうと思えます。でもこれから地方を創生していくのは、私は多くの人を雇用している経営者だろうと思っております。そういった経営者の感覚

についてのアンケートもぜひ必要ではなかろうかと。そうしないと将来の、私は個人の地方創生はないと思っておりますので、ないがしろにすることではないですけれども、経営者等のアンケートも一緒に実施していただければ幸いかなと思います。

■会長

何か事務局の方からはないですか。

◎事務局

経営者へのアンケートということですが、今のスケジュールの予定の中では、経営者様に限ったアンケートを取るということは含まれておりません。今後の討議の中で、策定委員会の中ででき上がったものがパブリックコメントというところで最終的に表に出てくるようになりますけれども、そこでお声をいただくのか、それとももっと前倒しで取ったほうがいいのか、その辺を次回までの間に研究をしてお答えさせていただきたいと思っております。

■会長

たぶん、このアンケートは市民にアトランダムに幅広く、どう思っているかということを知りたいためのアンケートだと思いますし、また、経営者の方は、もちろん対象を選ぶときにはそのリストはいるわけですけれども、この委員会にもいろんな分野の代表の方が出てこられていると思うので、できればそうしたところを中心にして聞き取りとか、場合によっては行政の方もおられたり、研究所の方もおられたりして、聞くということもあるんじゃないかと思っております。できる限り委員の皆さんの方でもその点は幅広く意見をこの場に集約して持ってきていただければと思っております。

◎事務局

私どもの中に部会が4つあり、その中に産業振興部会というのがあります。その中にも一般の方、民間の方も7~8人入っていただくような人選がほぼ固まっておりますので、その部会の中で、今おっしゃられたことなどを含めた取り組みをさせていただきたいと思っております。

■会長

他にご質問等ありましたらお願いします。

なければ次の課題に進ませていただきますけれどもよろしいですか。

□委員

アンケートですが、これは市民の方は大体いつぐらいに回収予定ですか。

◎事務局

市民向けのアンケートにつきましては、今週末から来週初めくらいに発送を予定しております。概ね2週間から3週間、8月上旬ぐらいで回収ということで考えているところです。

□委員

合わせて結果が出るのは、大体いつぐらいになりそうですか。

◎みらい研

詳しい検討を含めて結果としてお示しできるのは8月下旬を予定しております。

■会長

その他ございませんでしょうか。

それでは、②の意見交換に入らせていただきます。②人口減少克服・地方創生に向けた意見交換ということで、まず事務局の方から説明をお願いします。

◎事務局

人口減少克服・地方創生に向けた意見交換という項目を設けております。意見交換に入ります前に、第1回の委員会で総合戦略策定の趣旨についてご説明いたしましたけれども、ここで再度、総合戦略とはどういうものなのか、簡単に説明をさせていただきたいと思います。

【総合戦略】の説明

【②人口減少克服・地方創生に向けた意見交換】の説明

■会長

事務局を通じてというのは、今日は質問は出さないということですか。

◎事務局

質問がおありの場合は、後ほど書いていただきたいと思います。この方の意見について質問がありますよという形でペーパーにでも書いていただいて事務局の方に出していただければ、その方に間接的に尋ねするという形を取らせていただきたいと思います。

■会長

もしお気づきの点があったら、忘れないようにメモでも取り残していただければと思います。

前の机にはストップウォッチが用意されております。1人5分ということになっております。多少短い方もいるから、次の方は長くなってもいいかなと思ったりしますが、10名以上いますので、相当な時間かかるかと思えます。今日は途中で中座しなければならない方もおられると伺いましたので、行成委員から反時計回りに回っていただきたいと思えます。もしご都合が悪いようでしたら言っていただければ順番を変えますので。1人5分をお願いします。

□委員

皆さんこんにちは。前回は公務で出席できなかったもので、初めてこういう形で出席いたします。猶興館、平戸高校と違った形の高校が3つあるんですけども、私の学校中心で話をさせていただきますのでよろしくお願いします。

私は、高校の校長として、やはり地域を今後支えるのは高校生だと思っております、地元高校生による平戸の元気づくりということで、今やっていること、今後やることを踏まえて、こういうことをやってますということを理解していただく上で考えております。

サブテーマは地域平戸をキーワードにした特色ある高校生の取り組み、そして地域貢献、地域連携による活性化ということで題を考えていましたけれども、やはりこれからぜひ検討したいことというのは、これは猶興館と平戸高校の3校で取り上げられることかなと。魅力を高校生で発信すると。

まず、私も長崎の生まれで、平戸は今年で2年目です。この間も大島も回ってきましたし、いる間にいろいろ見ましたが、やっぱりすごいなと。農産物にしても、水産物にしても観光にしても、私の目から見たら非常に目新しくて素晴らしい。地元の高校生は地元のこういう良さに触れているのかなと思ひまして、具体的にはそこも書いてありますが、高校には新聞部や放送部がありますので、その3校の生徒が定期的に市報の中でふるさとの良さをアピールするということもできるんじゃないかなと。

それともう一つは、高校生によるフリーペーパー。地元企業から支援を受けながら、地元の良さ、または手作り観光マップ。今、高校生の〇〇甲子園というのが流行っておりますけれども、これは観光甲子園ということで、他の県の高校生が地元の手作り観光マップを作って、それを観光協会と一緒にやってるというようなことを聞きました。すごくいい観光地ですので、一般の大人が作ったものと比較しながらできないかなということで考えております。

もう一つは、高校生プロデュースによる新商品の開発販売。私はここに来るまで島原の島原農業高校というところにおりまして、素麺屋と一緒に、新しい形の素麺を作るということで、一緒にコラボして開発した生徒が2名ほどその研究部門の地元就職したということも含めて、こういったことをやればいいなというふうに考えております。

今年、うちの学科は、少子化の波に飲み込まれましたというとおかしいんですが、4

学科あったのが3つになります。3つの中で食品流通科という科を作って、食品製造と開発コースと、食の6次産業化に対応できるコースということで、やはり地元の特産物を使いながら、生産から加工・流通まで勉強するというので、そういった新商品開発販売ということを経験するプロデュース、手でやっていきたいなと思っております。

それと空き店舗ですね、それと直売所の販売ということで、あまりこちらの方では高校生の出番というか、これは私の考えですけれども、地域に残る人材を育成するためには、やはり地域の中で高校時代に頑張れることが大事かなと。平戸に残って、自分は将来こういふことをやりたいというのを高校時代に経験することが大事かなということで考えております。

今、地域貢献プロジェクトということで、北農アニマルカレッジ、子ども向けです。定員30名に96名参加して、朝9時くらいからするんですけども、度島からぜひ来たいということで子供さんがこられていますし、なるほど、そういった学校が持っている教育力を地域に貢献しながら、または地域と繋がりを持ちながらできるんじゃないかなと思っております。あと大人向け農業体験、そして今からやろうということでグリーンツーリズムに対抗してスクールツーリズムということでMRと一緒に8月に子供向けで2回ほど実施したいと考えております。内容的には生徒が先生役、案内役になって、基本的には佐世保方面の子供たちということで考えております。

あとひとつだけ、北松アグリ塾ということで、うちの学校の生徒と先生と農林部と4Hクラブと一緒に地域農業の活性化を図るということで、遊休農地も結構あるみたいですから、そういった中で地域に入っていくということです。

最初からすみませんでした。今後ともよろしく申し上げます。

■会長

詳しくここに書かれておられますので、そちらをご覧ください。
次、お願いします。

□委員

私は、一応テーマとして、創業支援と人口減の抑制ということで、増えはしないだろうと。やはり現状維持が精一杯かなという考えのもとに作らせていただきました。

まず①ですが、本年度、会議所の事業として、平戸市と平戸市商工会と合同で平戸起業塾というのを開催します。別にチラシを一枚入れているんですが、これは地元で新たに独立開業したいとか、Iターン、Uターンをしたいとか、これは大都市の方なんですけれども、そういう一般の方々を対象として、この起業塾を7月から行っていくというような取り組みを市と商工会と一緒にやっていくという計画をしております。

次に、近年の販売の方法ですけれども、情報化社会に伴う販売ツールの多様化ということで、ネット販売、通信販売、カタログ販売。特に平戸市においてもふるさと納税が日本一というような結果をもたらしておりますが、これについては市の方々、地方公共

団体、平戸市を含めマネジメントをする時代になってきているなど、新しい時代の波が来たという考えを書いております。そうした中で、実際に販売については、私は対面販売が好きなんですけれども、こういう情報化社会になると無店舗販売も相当ありえるというような販売形態の状況です。そうすると地理的ハンディはないと。沖縄であろうが平戸であろうが、ネット販売とかで地元の産品を販売するツールがいくらでもあるというのが現在の販売ツールの多様化というような意味で書いております。

次に、話はちょっと変わりますが、従来型の進路と今後の進路支援ということで、私たちが高校を出る頃には、先生や親から、進学か就職か、自分の家を継がんかとか、この3つの選択肢だけだったと思います。ただ、今の状況からすると、やはり起業、創業という選択肢もあっていいかなというふうに考えまして、そうなった場合には、学校における創業支援プログラム(あきない塾)を創設、これは中長期的な考え方になります。というのは、今の小学生から楽しみを覚えさせるとなった場合には、やはり10年先、20年先のことかなというふうに考えまして、将来において起業家、創業を目指す人材を発掘指導して、それで人口の抑制に繋がたらどうだろうかというところで、北農の先生と共通する部分があるんですけれども、まず①としては、小中学校からも楽しみを覚えさせる。小学校、中学校においては、商業、サービス業の課外授業とか、クラブ活動を支援する。というのが、商品開発などについては、子供さんの発想、想像力というのが相当あります。ですので、小さい頃からこういうふうな商業、特に新商品開発とかの作る楽しさを覚えさせる。学んでいただく。そうするためにはやはり地域支援の活用とか、一次産業の方々との連携も必要じゃないかと思えます。

次のステップが、中学、高校に上がってから流通とか金融、一般に経営学を勉強していただくと。③なんですけれども、今はグローバル化というふうな時代の波がありますので、やはり海外展開を考えるのであれば中国語、英語も小さい頃から教育することによって、発想力、想像力を作る、グローバル化に対応するという意味ではいいんじゃないだろうかと思えます。そうした場合に、最後にまち・ひと・しごと創生ということがあるんですけれども、やはり仕事がまず一番だと思えます。仕事がないとやはり地元に残らないというのが現状ですので、まずはまち・ひと・しごと創生ということがありますけれども、仕事が一番じゃないかというふうに考えます。

次が、交流人口を増やさないと地域産業が成り立たないということを書いておりますが、世界遺産が来年になっていきますので、短期的な考え方としては、内容は書いていませんが、そういうふうな世界遺産を見据えた交流人口の増加。世界遺産については滅多なことがないと取り消しにはなりませんので、永久的に登録されれば、今は全国的になったところは観光客が減ってはいるんですけれども、これもある程度ピークを迎えた場合にどれだけ現状維持していくかということで、地場産業も同時にやっていかなければならないということ。

最後に働く環境。やはり結婚、出産、子育てというのは、一連の将来設計ですので、やはりサラリーマンになるとやっぱりお金イコール仕事というふうな考え方になるのか

と思いますが、やはり働く環境を整えないと、こういうふうな将来設計が立たないことも注目すべきところだと思います。

そういうことで、私は提案として、小さい頃、小学、中学、高校におけるそのようなあきない塾を創設したらどうだろうかというふうなことを考えております。以上です。

■会長

皆さん熱い思いを語って頂いているので、ちょっと時間が伸び伸びになっておりますけれども、短いのも大歓迎ですから。

では、次お願いします。

□委員

着任しまして1年ほどになり、私が常日頃感じていることを、より具体的に話ができればいいなということでもとめさせていただいているんですが、テーマはまちづくりと産業振興というところで、日頃ちょっと気づいているところを提案をさせていただきたいと思います。

まずは、柱の1つがコンパクトシティへの取り組みということで、よく叫ばれているような内容ではありますが、当然ながら人口が減る。行政負担が増える。生活の基盤の維持が出来るかどうかという大きな問題に向き合うためにどうしたらいいかということになってくると、コンパクトシティ化を積極的に進めるということが必要不可欠というところで考えております。そうした場合に、平戸市全体を見た場合に、中心部は北部に集中しておりますので、北部の町並みを整備すると。観光、商業、製造、水産加工、いろんな業者の方が入っております。ここに生活の住居とかいうところもありますけれども、これを将来に向けてできるだけ整備していくというところの考え方が重要なというふうに思っています。

それから、商店街の整備です。今、4つの商店街に分かれて、聞きするところによるとなかなか意見がまとまらない。そういう中で平戸市がなくなるかもしれないという危機感がある中で、4つの商店街を一本化して、共同歩調で観光に向きあっていくという体制が必要かというふうに思っています。観光関係との情報の共有化を図って、徹底的におもてなしの協力を義務化をしていく。そうでないと商店街の存続はないというふうに思っております。イメージとしては、平戸版の湯布院とか黒川です。この方向でもっていけないかというふうに思っております。地域一体となっておもてなしの町の変革をする必要があるんじゃないかというふうに思っているところです。

それから、空き家がどんどん増えてきておりますので、空き家の整備が必要になってくるかと思えます。実際取り組みをされていらっしゃる場所もあるかと思えますけれども、空き家バンクをきちんと設立して、移住者に対しての斡旋ですね、これは不動産業者とタイアップして積極的にやっていくというところが必要かと思っております。

まちづくりの大きな柱は以上です。

それから2つ目に、人口の減少をできるだけ抑えるために雇用が絶対不可欠です。企業の育成と企業誘致、これが大きな柱になってこようかと思えますけれども、平戸市の予算は限られてきますので、できるだけ主要産業の育成に重点配分をする必要があるのかなというふうに思います。重点配分することによって、平戸市で核になる企業を育てていく。その核になる企業というのが、平戸市で商売をするだけじゃなくて、平戸市外で稼いでいただく。外貨を稼いでいただく企業を育成していくと。ここに私ども金融機関もバックアップしていくというところで、行政の方の協力もいただきながら、地元企業を育成していくという形をとっていきたいなと思っております。

それから、地域内で対応できることは、市内の業者さんに発注をやるということです。市内の業者さんで協力をしっかりやると。意識を変えていくということで、価格だけじゃなくて、当然自助努力も必要になってくるところもありますけれども、町でできることは町で取り組もうという意識を高めていくということが大切ではなかろうかというふうに思います。

それから、やはり平戸のいいものはたくさんあります。特産品をもっとアレンジも含みまして、品質向上も含みまして、何かもうちょっと認知度が上がるような動きは取れないかというところを考えてみる視点も必要かと。新たな特産品の開発、それに取り組むにあたってはまち全体で取り組まないと、なかなかインパクトがないというところで、一体となって取り組む必要があるというふうに思っております。

それから、企業誘致につきましては、ニッチ産業ですね、これの誘致を積極的にやっていたらというふうに思います。大企業の基本的な考えとしては、市場規模が1,000億、これぐらいでないとなかなか事業化は考えません。500億の市場規模については、大企業は着手しないというところがありますので、こういった事業に取り組もうとする企業を平戸に持ってくると、ネットワークを張り巡らして、そういう誘致に取り組むというところが必要かと思えます。

最後に、長のトップセールスがキーになってくると思いますので、平戸市内の企業の方と帯同して、いろんな県外のイベントを、これは実際なさっているとは思いますが、これを定期的に実施をして、トップセールスで売り込んでいくということです。これをやっていくと底上げができるんじゃないかと思っております。以上です。

■会長

では、次お願いします。

□委員

私は漁業の方の代表でございますので、視野が狭いかもかもしれませんが、今後の戦略会議で、おそらく骨太の方針をこの会議の中で答申するんだろうと思っておりますので、具体的でなくて、骨太の方針について我々が思っていることを申し上げさせていただきたいと思っております。

この戦略、地方創生が叫ばれるのも、やはり日本全国少子高齢化による労働者の不足。これは社会現象を根幹から覆す、特に医療行政、あるいは年金行政が崩壊寸前でありま。そういうことを考えた時に、私ども漁業界が一番その高齢化が顕著に進んでおりまして、5年先どうしようかというぐらいに喧々諤々と委員会、あるいは総会でもお話をしているところです。

その後継者を育てる一環として、現在、県、市によって後継者対策の事業を実施いたしております。実際にこの3年間で10名ほどの後継者の協力を得ておりますが、漁業というのは、農業も一緒ですけれども、なかなか短期間で技術を習得し、立派に経営していくというのは難しい業種です。そういう意味におきまして、今までの後継者育成は、個人で研修させて、個人で自立しなさいというのが主流であります。それでは長続きはしないだろうということで、今年度から、やはり雇用される側の漁業経験を踏ませて、長年の経験を踏んだ上で自立をさせるということが一番の理想でありますので、そういうふう雇用を産んでいきたい、漁業者を作っていきたいと思っております。

そのほかの雇用につきましても、第1回で申し上げましたとおり、特に私は生月でございますので、一番西の果てでおそらく大島と生月が一番地理的条件に不利なところでございます。そういったことから農協、それから漁協が地域のコミュニティの中心となってこれまで地域を支えてきたと自負はいたしております。これからも同じような責任をもって参画をしていきたいと思っておりますが、その中で雇用を作って、場を作って、求人をしてなかなか来ないのが実態です。例えば福祉関係のヘルパーさん、あるいはスーパーのレジ打ちさん等を募集しても、皆さんの給料からすれば安い条件かもしれませんが、地方からすれば一定の水準があるわけでございますので、なんで来ないのかなと、今研究中でございますけれども、やはりそれも何もかも市でやってくださいではこれから通っていかないと思っております。やはり我々もこれだけやりますから、市の方も多くの助成をお願いしますという関係が、行政サイドになれば、市議員さんでもなんでも、市の責任でやれという方もいらっしゃると思いますが、やはりそれでは市民と市行政とのいい関係は創生されないと思っております。これからタイアップした事業を、この前の資料の中でいろんな事業がありました。その中でもやはり我々に関する事業においては、資金を創出しながら、財源を求めながら市と漁協の方でそういった事業を行っていただければと思っております。

状況の悪いことばかり言えばいろいろありますけれども、昨日もテレビでありました。やはり地方にこそ未来があると。地方には未来がありません。そういうことでございますので、我々がそういった言葉の対応を掲げながら、これからの平戸市の基盤となる、そういう事業体を作っていきたいと思っております。

その一環として、2番目書いておりますが、前々から私は構想は持っております。やはり豊漁貧乏と申しまして、大量に魚が取れますと、ただ同然の価格になるというのが現在の流通の実態でございますので、それを漁民の皆さんが安定して加工事業を創設することで価格の維持をして、その方向もここ1、2年のうちには実現して漁協の方でや

っていききたいと思っております。そのためにも失礼ですが、田淵組合長さんもお就任になりましたので、新しい感覚で、地方の私どもも農協と連携をしながら、やはり例えば原料の味噌を作っていただく醤油を作っていただくというふうにそれぞれの交流をしながら、地方の創生に向けて頑張っていきたいと思っております。

3番目が、市民の皆さんもおそらくお気づきと思います。海岸線の藻場が枯渇しております、ほとんどの平戸市の海底は真っ白になっていると思います。昔であれば藻があつたり、カジメがあつたり、いろいろなものが入っていたわけですが、それがなくなって、アワビ・サザエも取れなくなる。そしてウニ、海藻も取れなくなる。そういう状況が続いておりますので、これも平戸市と一体となって、私の漁協では3年間取り組んで、少しはその成果も生まれてきておりますので、この海岸線を利用するのは漁民ではなく、ほとんどが市民の皆さん。特に農業の奥様がウニを採ったり海藻を採ったりして、今年はおそらくふのりがいい値で売れたということで短期間で30万くらいの収入になると思いますが、自分だけじゃなくて、これは市の財産でございますので、昔のように復活した、そういう自然環境をもう一回創生したいと考えております。

相対的に申し上げれば、先ほど申しましたとおり、我々団体の役職員が1人の組合員、あるいは市民の目線で本当にやってもらって、我々で頑張っていけば、必ず夜明けが来ると信じて頑張っていきたい。新しい創生に対する提案については、また次回でもお願いしたいと思っております。以上です。

■会長

次、お願いします。

□委員

まず、私のテーマとしては新規高卒者等の雇用の促進ということで説明をさせていただきます。

まず、新規高卒者の就職の状況、これは昨年度の状況になります。1枚目のところ、新規高等学校の就職状況ということで、これが江迎所管内ということになりますので、松浦市とか江迎、鹿町町の状況も同じような状況ということになりますので、高校でいけば松浦高校とか鹿町工業高校とかを含めたところの状況になります。

一番左の方で見ていただくと、卒業者が581名に対して就職者が281という事になっており、この差の300と言うのは進学希望ということで考えていただいて結構だと思います。ですから半分以上の方は進学を希望している。特に女性の方は進学希望というところが非常に多くなっています。就職希望でも、ほとんどが安定所、学校を経由しての就職ということになりますけれども、あとは自己就職、縁故就職で、例えば公務員受験をすとか、親戚の会社に行くとか、そういったところで自己、縁故というのがあります。そういったところで、管内、県外ですね。県外が最近が多くなっています。ただ、昨年度は県外就職というのが減りまして、県内というか管内ですね。一番下を見ていた

できますと、平戸市内での就職者ということで、これは自己就職者も含みますけれども、前年が 20 名に対して 27 名が平戸市に就職をされた。男女の比率でいくと男性が 9 で、女性が 18 という事になります。そういうことで、女性の方がどうしても地元で就職したいということになっています。

下から 2 つ目の求人数を見ていただくと、一昨年は 97 名の求人を頂いたんですけども、昨年度は 146 ということで、約 1.5 倍の求人数になっています。やはりこれは景気が良くなっているというところもあるんでしょうけれども、高校生の若い力を地元にとということになります。これでいくと 100%就職できてますといいんですけども、平戸市内の就職というのが 27 という事ですので、大半が未充足で終わっているということになります。ですから、今後はそういったところの生徒と企業との求人とのミスマッチのあたりをいかに小さくしていくかということが問題になるかと思えます。

あと 2 枚目が、これは本年度末に卒業される高校生の就職動向調査ということで、5 月に実施をしている分です。ちょっと数字が細かくて申し訳ありませんけれども、これも男子、女子分けて、前年度と今年度の分と入れております。その状況を見ていただくと、就職希望者が全部で 256 の中で、226 の方が安定所、学校の紹介を希望している。その希望された方を、2 つ目のグラフを見ていただくと、県内、県外の比率が出ています。ただ、これは 5 月の状況なので変わる可能性もあるかと思えます。やはり、一番多いのは県内に就職したいという 60 です。ただ、県内でも長崎になると平戸を出ていくということになると思えますので、どのくらいが地元から通える範囲に就職されるのかというのは問題かと思えます。

県外では、116 名の方が県外希望ということになります。一番多いのは福岡、愛知が多くなっています。福岡はやはり近くて、車関係とか、愛知の方でも同じですけども、いろいろな製造関係が多いということもありますので、そういったところで福岡、愛知が多くなっています。その次が、県内での職種別、こういった職種の仕事につきたいのかということになっています。県内では、やはり製造工程ということで、やはり製造関係の求人が就職希望者の方が多くなっています。これは、例えば鹿町工業さんとかが入っていますので、どうしても製造関係が主になります。そういったところで製造関係とか、あと専門技術職とか、そういったところの希望が多くなっています。あと県外がその次の下のところ。県外の方がほとんど製造工程ですから製造関係、あと専門技術的職業ですから、これもどちらかというところ製造関係の仕事に就きたいというところが多くなっています。

こういった状況の中で、今後どうしたらいいのかというところで、やはり平戸市内の方になかなか求人、今結構景気もいいから良くなったということもあるんでしょうけれども、求人の希望が多くなっています。ただ、先ほど言いましたように、ミスマッチというのがありますので、求人を出すだけけれども、どうしても人が来てくれないというところは非常に多くなっています。そういった中で、1 つの解決策としては、そういう求人事業所の製品が本当に素晴らしいものを作っているのにも関わらず、あまり広く知

られていないというケースもあるので、そういったところで1つ目が求人事業所の認知度のアップということでインターンシップ、これは最近は中学校、高校生の夏休みを利用してのインターンシップというのを広く行っています。そういったところで管内の、平戸市内のそういった求人の事業所を増やしていく。あと、大企業さんであれば、そういった事業所見学バスツアーというのをお聞きしているところがございます。これは特に大卒とか、そういったところでは、自分のところにそういったツアーをしてやっているところもあります。ただ、なかなか平戸市内の小さい企業さんでこういったことをするというのはできないと思いますので、こういったところを行政なりがまとめて企業さんの要望に答えるということは可能かと思います。

あと、企業ガイドブックの作成ということで、これはなかなか管内の企業さんの中身がわからない部分がありますので、そういったガイドブックを作って、広く市民の方、あと生徒の方にも配りながら、そういった市内の企業さんのいいところを出していければと思っています。平戸市のホームページにそういったところの事業所の紹介を掲載をするとか、労働局のホームページで若者応援企業宣言事業ということでやっております。それは一応ホチキス止めのところで、こういったパンフレットをつけています。これはそういった若者の応援宣言をしていただきますと、長崎労働局のホームページに掲載をして、生徒の方とか学生の方がそれを見ながら、今後の就職の準備をしていただくということになります。

2つ目は、労働条件の整備のためのセミナーを開催してはどうかということです。やはり都市部の企業さんに比べると給与体系とかも大変厳しいところもあります。そういったところは家から通うとなると、必要経費というか、ある程度こういった給料でも生活ができるというところもあるんじゃないかと思いますので、そういったところの給与体系の見直しとか、あと雇用管理、労働法の遵守もありますので、そういったところをきちんとやっていけば、生徒の方も安心して就職できるんじゃないかというところで、こういったセミナーをハローワーク、労働基準監督署、そういったところも・・・していただければ、そういったセミナーも定期的に開催が可能かと思っております。

最後に、ミニ面接会等も定期的実施というところで、例えばそこに書いてありますように、ミニ面談会をどこかの公民館の方に来ていただいて、2、3社面談会をするということで、そういった遠隔地対策でもあるんですけども、そういったところでやっていけば、いくらかでも就職が増えるんじゃないかなと思っております。そういったところで取り組みをしていきたいと思っています。以上です。

■会長

だんだんと時間が5分から長くなってきているので、ちょっとすみません、短めにさせていただければありがたいと思います。次は、委員さんが用事があるということで、順番を代えさせていただきます。

□委員

申し訳ありません。

今、公共職業安定所の委員さんからありましたように、確かにミスマッチなのかなとも思うんですけども、実は私はテーマを書いておりますが、①から③までタイトル出しのような形で出しております。

1つが、地元高校と地元企業の雇用創出タイアップ対策ということで、まさしくただいま安定所からもあったような内容であります。私どものJAは、県北一円をエリアとした農協でありまして、職員が700名おります。平成20年から毎年30名ずつ新採を採っております。その30名を採っておる中で、やっぱり私どもの農協というのは地元密着型の仕事の内容でありますから、当然地元の生徒を取りたい。就職ガイダンスもやっていますし、ホームページも作っていますし、インターンシップ制度もやっています。さっき校長先生の話もありましたが、残念ながらインターンシップに北農の生徒は一人も来ません。求人しても一人の応募も来ません。農業高校なのに農協に一人も来ません。むしろ来ますのは、ちょっと気持ち悪くしないでくださいよ。むしろ来ますのは佐世保商業高校、佐世保実業高校、あるいは普通高校でありますその他の高校、はっきり言います地元の北農からも来ない、猶興館からも来ない。平戸高校、松浦高校、松浦高校は若干ありますがも来ない。なぜなのかなと思ってミスマッチを感じています。したがって、行政の方をお願いしたいと思っていますのは、やっぱり若人というのは、どうしても都会に憧れますから、そういったことがあるのかなというのが1つ。それからもう一つが、地元の企業といえますか、地元就職をする場合のなにか支援策を行政でも考えていただけないかなと思っています。

それから、農業・漁業のコラボによる支援塾等を通じた子育て支援と書いてありますが、これは市内の子供だけではありません。市外の子供も含めて、やはり第一次産業的な農業と漁業がコラボして、自然の中で子育てをする。いかにも健康で、しかも将来の人材育成の子育てというのは最適と思っていますので、何かこういったことに知恵を出していきたいと思っていますし、行政もお考えいただければなと思っています。

それから3番目の企業誘致行政合同対策室なんて書いてありますが、今も平戸市は平戸市で、松浦市は松浦市で、佐世保市は佐世保市で企業誘致というのは積極的にやられていると思いますが、むしろ佐世保市も平戸市も松浦市も、できたら広域的な中で、合同的な対策が取れないのかなと。例えば今回、小佐々の工業団地にトヨタ系の企業が進出をしてくる。これは製造業だそうですけども、かなりの雇用が生まれる。そうしますと、当然平戸の若者もそこに就職なり通勤なりあるかと思っています。あるいはまた、その一角には九州テン店が入ってくるという話も佐世保市の方から聞いております。そういったことから、それぞれの単独した行政体でだけ行われているのではないかと、そうではないのかもしれないよ。そのようなことを考えております。

また、農業関係も、国の政策なり農政の大きな転換の中で、農業者以外の異業種が農業に参出してくるという事例があります。お聞きと思いますけれども、JR九州が松浦

にJ R九州ファームという大きな企業体を通して、農地を利用した農業に取り組む。その中で20名ほどの雇用を早速求人されているようですので、そういったことを考えますと、やはり企業の誘致活動につきましては、もっと広範囲な、縦だけでなく横の連携を深めていただきたい。このようなことを考えてこうして書かせていただきました。以上です。

■会長

では、副会長。

■副会長

私は遊休農地の有効利用ということで、内容はここに書いてあるとおりです。

まず農地が荒れるということは、農業生産が落ちる訳ですけれども、これを見た人の、観光客を含めて、地域全体の活力が低下しているんじゃないか、そういう印象を受けるんじゃないかということも含めてこの提案を出しております。農地は余っているといえますか、遊休農地がいたるところにありますので、それを有効活用すべきじゃないかなと思います。課題としては農地の確保とか、主体は法人化する。法人化することによって、いろんな人の知恵、あるいは知識、あるいは資金を活用できるかと思っております。

それと3点目は、冒頭にも書いていますが、当然一次産業、農業、漁業は環境の変化の影響が一番受けやすい業種ですので、あるいは国内外の市場を見ながら、国内だけの流通ではなくて、当然③にも書いていますが、当然海外への輸出も含めたところの生産体制もすべきじゃないかと思っております。現に長崎県は水産物の輸出が目標値を大幅に上回っているということも聞いております。平戸の農業についても、関東、関西だけを目指すのじゃなくて、平戸は昔から海外とも交流しております。中国とも台湾ともそういうルートもありますので、海外の輸出に向けた、そういう方策も考えるべきではないかというのが私の提案の趣旨です。以上です。

■会長

私の方からも意見を出していきます。

まちづくりとか地域づくりをする時には、なにか若者と馬鹿者とよそ者がいるというようなことをよく聞いたりするんですけども、私はそういう点で言うとよそ者というのが1つ当たっているかなと思います。出身は大阪の郊外なので、ちょっと皆さんとは違う視点からの話になるかもしれませんが、基本的にはこれから先、人口が右肩下がりということで、それに応じたようなまちづくりをしていくということになっていくかと思えます。例えば、平戸市位の面積であっても、ずっと1万人で成り立っていて問題もなかった町もあるわけですし、東北の方に行ったら、九州よりも人口密度の低い町はいっぱいあります。北海道に行ったらもっとそうですけれども、基本的にはいくら人口が減っても、そこに応じたような市の構造になっていたら、それほど大きな問題は出てこ

ないかなというふうに思っております。そうした点でいうと、人口が減少したら、それに応じたような地域のあり方というのがあるということで、ただ、先ほどのシンクタンクの方の話でもありましたように、平戸市は合計特殊出生率がかなり高めである。さらに人口回復策というのも考えているということで、ちょうどグラフに出てきたような現実のこれからのリスクよりももう少し高どまりするところで減少を食い止めていくということできるのではないかと考えております。

そこで1つ考えたのは、Iターンによる人口回復策。これは長崎県内の離島とか、離島でない地域なんかでも、結構ホームページを見たら、空いた空き家とか農地なんかにIターン者に来てくださいという形のPRなんかがされています。それではなかなか規模的には足りないんじゃないかと考えているんです。実は5、6年ぐらい前、沖縄県の石垣島でIターン者の動向について集落に入ったりしながら調査をしたことがあるんですけども、そちらで見た時は、これまでとは違うようなIターンが見られました。基本的には、普通イメージするIターンというのは、都市住民が村落に入って村落生活を満喫する。そうした村の生活に憧れて、村の生活に従ったりするような形で入って行って馴染むというパターンが一般的だったと思うんですけども、石垣島を見ると、都市住民がどんどん増えているんですけども、東京とか大阪からの、そういった方たちは都市の生活をそこに持ち込んでいるわけです。だから地域の人達とは違うような生活をしている。場合によってはこのようなものも受け入れたりしながら人口回復というものができないかということも考えております。ただもちろん、沖縄の石垣市と平戸では、地域も環境が違うので、向こうの方は珊瑚礁、亜熱帯とか、そうしたところのキーワードがあります。離島、島という点ではよく似ているかもしれませんが、だから違う平戸へ引きつけたりするような魅力も必要ではないかと思うんですけども、これは福岡とかの都市部に近接しているとか、海があってマリレジャー、釣りも含めていろいろなレジャーが楽しめるというのはあるかなと思います。

石垣島で多かったのは、リタイアした人が入っていくというパターンでした。ですからウィークリーマンションとか、マンスリーマンションというのが市の郊外に結構ありました。そこは試行というか、ダメだったら出ていくという人が多かったと思います。逆にまた、ちゃんとした家を買って入っている人もいて、ある集落なんかは、いつのまにか集落の人の50%以上がIターン者であって、自治会長がIターン者、東京の新宿で飲食店をやっていた人が自治会長になって、その村を仕切るようになったようなところもあったりしました。もちろんそこでは郊外の、東京でも見られるような生活を持ち込んで、ちょうど近くでリゾートマンション建設の動きがあったので、そういったものに反対する住民運動組織が起きたりして、まさにかつての郊外なんかの開発の時代にあったようなことなんかを持ち混んだりしたところがあったんですが、だからこれは、場合によってはその地域の人たちも生活のあり方をまた色々見つめ直して変えていく必要があるかもしれません。またお互いに共存するところもあるかもしれませんけれども、場合によってはそうしたIターンの魅力を高めていけば、民間の開発も誘導できる。中

高年の場合は、特に回転型宿舎の場合は、雇用の問題はそこにはなくて、逆に新たな雇
用を創出するという事も出来るんじゃないかと思います。

あと、空き家がこれから出てくる。要するに、これから人口が減っていくと、その減
った時の人口の規模に応じた地域というのが必要なわけで、そうした場合に周辺地域の
人口が減った村をどのようにまとめていくかというような課題もあるかと思います。大
体農村部の人というのは、土地にすごい愛着があると思います。私も郷土愛というのは
ありますけれども、私の生まれ育ったところは、どんどん人口が減ってしまったので、
私が住んでいた家も跡形もなくなっていますし、町も全然変わってきているのですけれ
ども、そうしたことも視野に入れた、新たな集落再編成というか、効率のいい都市と集
落のあり方というものを考える必要があると思います。以上です。

■会長

では、次をお願いします。

□委員

15人の委員の中で2人だけが女性という立場なので、その立場から話していきたいと
思います。私も平戸市出身じゃなくて、平戸に住んで10年ぐらい経ちます。主人は漁業
を営んでいます。田舎の方に移り住んで、私も田舎の出身ではあるんですけども、非
常に平戸は遅れているなと思いました。女性の地位が非常に低いと感じています。女性
の地位向上、女性の意見を言う場がなくて、町会とか行っても、実際に女が口出しする
などか、そういうことをいうようなところもありますし、よそ者に対して非常に厳しい
ところもあります。考えられないとも言われてきました。婦人会とか、古くから存在
している団体の意見とかを、女性の意見を拾わないと、ということではしてくれるん
ですけども、大人数の場で話すことに慣れていない多くの主婦は、その場で結局話すこ
とができないんです。それで、特に若いほど、若い人が意見を言えない。5、6人の中
だと話せるというのが実感でありますので、もし若い人の意見を、女性の意見を拾うと
したら、5、6人からじゃないかなと私は思っております。それを感じました。

それから陳情についてですが、よく陳情ってありますよね。あれが、女性の立場から
言いますと、非常に仰々しいというか、もどかしい。もっと簡略化できるんじゃないか
と思っていまして、ニュースを何年か前に見たんですけども、その時に、例えば道路
にちょっと穴が空きましたとか、問題があった時に、ネットで例えば市のホームページ
なんか写真を送って投稿すると、対応できることはすぐ対応しているという市町村が
あったんですけども、そういうことを取り入れてくれたら、もっと女性も写真、それ
こそ携帯、スマホとか持っているんで、ぱっとしやすいんじゃないかなと思いました。

女性という立場ではそれぐらいです。以上です。

■会長

では、次お願いします。

□委員

専門機関からの立場としてあるんですけれども、交流人口拡大、定住対策としていますが、メディアの活用ということで話ができればと思っております。特にふるさと納税とか、平戸市は昨年度1位になりましたけれども、これも最初の大きなきっかけは金スマ、バラエティ全国放送の番組に取り上げられたことがきっかけで一気に伸びてきたと。やっぱりそういったメディアとかテレビとか、そういったものに出ることによって一気に認知度が高まって、来てみようとか、買ってみようとか、そういったことにつながりやすいと思います。ですのでやっぱり何かしらいろんな住民さんたちがまちづくりでやったり、新しい商品を開発したりとか、そういったものをどんどんマスメディアに出していくべきじゃないかなと思います。奥ゆかしい人が多いのか、発売して1年後にこんなおもしろいものが出ていたんだということに気づいて、それを書かせてもらったりということもあるんですけれども、それを全体的にマスメディアだけではなくて、今はSNSとかもありますし、どんどん情報発信できるような組織があれば、より多くの人に平戸のことを知ってもらって、来てみたいとか、世界遺産もありますし、世界遺産のある町に住んでみたいとか、そういったことにつながっていくんじゃないかなと、仕事をしながら考えています。

ちょっと前の土曜日付の紙面ですが、そこで55歳から65歳のリタイア層の方の九州外からのIターン、人口移動ですね、これが県内、平戸市は大村、長崎、諫早に続いて第4位、県内でもかなりリタイア層の転入がかなり多い地域であるということが九州経済調査会の調査で分かったという記事が出ていました。この内容が、IターンなのかUターンなのか、ちょっとわからないそうですが、さっき会長の話でもリタイアした人がウィークリーマンションでという話もあると思いますけれども、平戸はそういう素地があったりするのかもしれないなと思っています。

ただ、一方で話を聞いていると、なかなか空き物件がないということも同時に不動産屋の人とか、Iターンの人とか、結構そういう話を聞くんですね。若い人も店を作ろうと思うけれどもいい物件がないとか、こっちに住みたいという人に対してもなかなか家がないということで、なかなかちょっとそういう受け入れの体制というのがうまくできていないのかなと思います。今後そういったIターン者を増やすにしろ、交流人口、定住を増やすにしろ、やっぱり住む、受け入れ、定住、家の部分ですね、住環境も大事ですけれども、雇用環境というのもしっかり整えていく必要があるんじゃないかなということです。平戸は歴史的にも深いですし、景色も綺麗ですし、食べ物も美味しい。かなりいろんな宝物があるなかで、それを生かすための取り組み、どんどんマスコミに出してもらえれば、この前度島の取材に行ったんですけれども、度島のスイカというのは瀬戸市場とか新鮮市場とかでもたぶん平戸産スイカしか売られていないんじゃないかと。それが度島スイカだと。度島という一つのブランドを作り上げれば、それはやっぱり度

島という名前が知られて、行ってみようかなと、呼び込むためのイベントとして、スイカ割り世界選手権大会を開いてみようかとか、そういう話も出たりして、そういう何かしら今あるものを利用した取り組み、新しい商品だとか、そういうものをやるとこれは面白いんじゃないかということでマスコミが目をつけて、それを発信する。それを見た人もどんどんやってくる。そういういい循環ができればいいんじゃないかなと思っています。ただやっぱり今はまだまだマスコミもうちと西日本さんしか常駐の社員さんがいないので、なかなか、特にテレビさんとかはこちらにいないので、市もそうですし、市民の皆さんとかいろんな団体の方がどんどん投げしてくれれば、すごく私たちもお手伝いできていくんじゃないかなと思っています。

ふるさと納税で、今、全国的にも注目を集めている平戸市なんで、今この流れを利用しない手はないと思うので、何かしらそういった戦略の中に、今この状況で見つかったものというのを何かしら見込めればいいんじゃないかなと思います。

■会長

では、次お願いします。

□委員

人口減少を少しでも抑制するには、現在の雇用の場を守るということと、さらに雇用を創出するということが欠かせないと思います。それで、雇用の促進についてということで、現状も踏まえながらちょっと考えていきたいと思います。私は平戸の北部の方で食品スーパーをやっているんですけども、現在うちで90名ぐらい雇用しています。しかし、現在、社員にしろパートさんにしろ、非常に採用が困難になってきました。なかなか来ないということと、来ても長続きしないと、質が落ちたのかどうかわかりませんが、そういう方々になってきたと感じます。ですから、今は採用にしても申し込む場合には年齢とかそういうことを書かれませんが、以前なら60過ぎとかということになるとちょっと頭をひねりっていたところが、今はそういうことはまず言われないうようになってきました。元気ならば何歳でもOKという感じで採用には臨んでいます。部門にもよりますが、部門によっては高齢者でも遜色のない仕事ができる場所がありますので、そういう方とか、土曜、日曜とか学校の休みの時には高校生のアルバイトも動員しながら、何とかやっているというような状況です。

そういうことで、雇っている人も辞める人もいるものですから、常に補充をしなければいけないという状況ですけれども、そういうふうに辞めるということは、会社にも問題があるのかもしれませんが、辞める原因の一番は、会社の間人関係がほとんどですから、社員教育の方もしっかりしていかなければいけないのかなということを感じております。

それから、スーパーということを行いましたけれども、人口がどんどん減少しているにも関わらず、反対に競争の方は激化をしているんです。というのは、今年1月、

コンビニが2店同時にオープンしました。それから、今工事中ですけれども、私のすぐ近くにコスモスが500坪くらいの規模で出店してくる。9月くらいにオープンかなと思っていますけれども、そこがオープンするとか、結構近くになりますけれども、ドラッグモリも造成中ということで、これは来年オープンになるようですけれども、そういうのが出てくるというようなことで、人口減少とともに、今度は新たな店ができてくるということで、両方でこれをどうするかという問題に迫られているところです。チェーン店はどんどん、そういう小さな商圈に組み込めますから、そこと競合しながら、やはり自分の店、会社をしっかりとやっていくということが求められているなと思います。

それと関連しながら、今言ったのはほとんど郊外型店舗ですけれども、それと昔からの中心部商店街があります。どんどん郊外型店舗ができてくるということで、中心街がさらに力が弱まっていく。自然と力が削がれてくるというような状況になってきています。利便性においてはそういう郊外型が必要ということはわかりますけれども、やっぱり中心部、今からどんどん10年後、あるいは20年後を考えれば、歩いていけるところに店があるということが求められてくるということですから、これは今の現状からさらにそういう店を、コンパクトシティというような意味合いからも、しっかりそれを守っていくということが大事かなと思います。ですから、商店主の皆さんの力もそうすけれども、それを行政が側面から応援していただくということがさらに大事になってくるのかなというふうに思います。

幸いに平戸の場合、先程も言われたように、ふるさと納税で1位になったとか、百何十万という観光客が来ていますので、やっぱりこの人たちを今の平戸の活性化につなげる努力、工夫、いろんなことが必要になるかなと思っています。農業、漁業、それから観光、そういうものが一体となってよそからそういう人たちを呼ぶ、ひいては平戸市全体が豊かになるということだろうと思いますので、ここはひとつ本当にみんなの力を結集するということが必要かなと思っています。以上です。

■会長

では、次お願いします。

□委員

私は専門的な知識を持ち合わせておりませんので、主婦目線で思ったこととお話させていただきます。テーマは、私は大島に住んでいますので、離島への移住者の誘致。本当は若い、今から子育てをするような方々に戻ってきて欲しいのはたくさん気持ちがあるんですが、何しろ大島は雇用がないので、帰っておいでということができません。それで、さっきも会長さんの方からお話がありました。定年退職者に目を向けようということになって、今、大島では、既存の事業として市民力アップ事業、これは補助を受けて、スギ花粉の避粉地体験セラピーというのを3年ぐらいやっております。これは東京方面からも中高年の方がかなりいらっしゃって、リピーターも増えて、1週間のほどの

体験をされて、よかったと言って帰られています。この方たちがリピーターとして来られて、大島にちょっと長く住みたいな、もっと長く住みたいなという思いになっていたように、その事業をされている方たちに私は一市民としてサポートしていきたいなと思っています。

もう一つ、今私が住んでいます神浦という地区は重伝建の指定地区です。築50年以上の古民家を修復して、そこに住んでいる方もあれば、空き家のままの状態の家が半分以上あります。私の考えは、その空き家になっているところを無駄に税金をかけて修復して空き家のままおいておいても、また痛む一方だから、持ち主さんの了解をとるなり、申請時にそういう条件を出して、いいですよという方の分を先に修復してあげるということを出して、そこを島外の定年退職さんたちの体験宿泊施設とか、そういうのに使っていただいて、それを永住に向けて引っ張っていったらなと、それくらいのことしか考えられていませんけれども、そういうことで、一人でも二人でも大島によその方が来てくださったらなと思っています。

ちなみに私は昭和47年に大島にきましたけれども、その時に人口は3,200ぐらいありました。現在1,100ちょっとです。限界集落が目の前に来ております。それで、一人でも二人でも交流人口を増やしたい。そういう思いで一杯でおります。以上です。

■会長

では、次お願いします。

□委員

トリを任せられましたが、私の所属は長崎県建設産業労働組合。私たちのところは組合と言っても異色の組合です。労使双方が建設関係で大工さんが一番主ですが、大工さん、左官さん、今、本部、長崎県内で組合員さんが6,279名です。平戸で224名おります。

仕事の創出についてちょっとお話をさせていただきたいと思います。平戸市で27年の4月から施行されておりますが、移住定住環境整備事業です。これは人口減少抑制として大変良いことだと思いますが、これはほとんど移住の方の新築に対して補助金が出るようになっております。ただ、私たちは市内在住者の新築を取得された方に補助を考えております。ただ、平戸市内全体では、新築がほとんど建っていない状況です。したがって、住宅リフォーム、これに力を入れていただきたいということで、私は話をさせていただきたいと思います。

県では、平成25年度から住宅制度控除リフォーム支援事業が施行されております。ただ、その時に25年度には80万、いろんな制限がありますけれども80万補助が出ておりました。26年は30万、今回は26年度の利用者が少なくなっていますが、これは手続きが煩雑で施工に関して制限があることで不評だと聞いております。今回、平戸市も住宅の控除リフォームということで打ち出してありますが、予算が894万、県から配分され

た予算と聞いております。したがって、平戸独自に住宅リフォーム助成、これは皆さん方の使い勝手がいいように、おそらく県は1件あたり10万だと思っております。この額を少しでも増やしていただければと思います。平戸市独自の住宅リフォーム助成を打ち出していただきたいと思っております。

今、平戸はさっき言ったように新築も建たない状況です。ですから、職人さんは市外、県外に出ておられます。その方たちが少しでも仕事があって、こっちに残っていただきたい。そして若い後継者が育つように。今はほとんど大工の棟梁さんも自分の子供を職人にさせておりません。私も2人息子がおりますが、職人じゃありませんが、県内に止めて、平戸市に止めて働かせておりますが、とにかく職人さんが、まして左官さんは100人に1人ぐらいしかいない状況です。したがって、私たちは短期のお願いだと思っております。このリフォーム助成制度を知っていただきまして、少しでも仕事を創出していただきたいと思っております。

県内に既に8市1町で独自のリフォーム助成制度が行われております。これで2億4,800万と聞いております。こういうことでよそは始めておりますので、前にも平戸市にはお願をしたと思っておりますが、なかなか進展がない状況ですので、とにかく仕事の創出。私は短期でそれをお願いするより他にないと思っております。県外、市外に職人さんが出て行かなくてもいいようお願いしたいと思っております。以上です。

■会長

これで今日ご出席の委員の皆様からはご意見を伺いましたが、今日休みで、資料の方に意見だけまとめられている方もおられたと思っておりますので、お互いにちょっと自分の意見等言いたいことがありましたら、これは事務局の方に。

◎事務局

今言っていただきました意見等についての質問とかがございましたら、事務局を通じてお尋ねしていただければと思います。

■会長

では、今すぐに聞きたいこともあろうかと思っておりますけれども、次の3番目に移らせていただいていいですか。では3番目、その他ということですのでけれども。

◎事務局

その他でございます。

1点お知らせでございますけれども、平戸の図書館、北部公民館の複合施設であります平戸市未来創造館、正式名称が先ほど決まったところですが、これが8月1日土曜日に開館する運びとなっております。会館の記念といたしまして、平戸市地方創生アドバイザーである前武雄市長の樋渡啓祐氏の記念公演があります。タイトルは「日本の地方創

世は平戸から」で、平戸文化センター中ホールにおきまして午前 10 時 30 分より開催いたします。地方創生をテーマにした公演ですので、ご参加いただければと思いご紹介させていただきます。

■会長

では、他はもうありませんか。

□委員

1 つお聞きしたいことがあるんですがいいですか。

この会もなんですが、あと行革推進委員会とかまちづくり委員会とか、総合計画策定とか、似たような会がいくつもあるんですね。中にはかなりダブっているところがいっぱいあるんですよ。その辺をそちら側ですり合わせとか、ダブっている分のお互いの修正とか、そういう色分けとかはされる予定はありますか。かなり似たところがいっぱいあります。

◎事務局

委員さんのおっしゃっているように、水産も浜プランというのを作ったりとか、あらゆるところでこういう中期、5 年ぐらいの計画がたくさん作られております。その上位の計画がこれなんですね。この策定委員会の総合戦略になってきているんですけども、部会の中で各課の職員が入っております。当然、自分たちの課で行っている何とか計画、そういったものはすべて把握しております。それを踏まえた上で部会の中でタマ出しをしたり、個別事業の提案をしたり、部会が終わった後にも各部会の委員の職員が各課で決裁を回しています。回覧で、今回こういうお話でしたと。そういうことをすべてつなげるシステムになっておりますので、当然課長の方も見られているでしょうし、部長も見られていますでしょうから、バラバラ使えませんよね。こっちで入り、こっちで入りということはできませんので、そのへんは整合性が取れた意見に収斂されているものと思っておりますので、大きな誤差とか、方向が違ったりということはないと思っておりますので、ご安心ください。

□委員

分かりました。

■会長

よろしいでしょうか。

□委員

委員会でちょっとなじまない意見ですけども、せつかく財政課が担当しております

ので、現在平戸市では夏に平戸、田平、大島、この3つは補助としてかなり下がっております。でも私ども生月漁協と館浦漁協は一定の条件整備がなされておらんとか、そういう言い方で断られております。館浦はいくらか知りませんが、うちでも260万ぐらい。全額漁協負担でやっていますけれども、やはり同じ市民として、同じ花火が上がるのに片方は助成をします。片方は助成をしません。そんな不公平なものはないので、全て予算化は財政課でなさいますので、今年は間に合わないと思いますので、来年から何らかの形で同様に行政の措置として助成をしていただきますようにご配慮の方を、この会には似合いませんけれども、よろしくお願いいたします。

■会長

他はよろしいでしょうか。平戸市というのは、もちろん今、生月とか大島とか田平も合併して大きな平戸市が近々10周年の式典があるようですけれども、知名度はすごく全国的に有名だと思います。知らない人の方が少ないというところまで行っているんじゃないかと思います。いろいろと人を集めたり、声を集めたりするというにはほかの地区よりもメリットがあるかなと思いますので、どんなふうな資源が出せるのか、魅力があるのかということも考えながら、ちょっと戦略的なものができるんじゃないかなと期待しております。ふるさと納税でもかなり優れているということで、色々と納付を期待していけるところなんじゃないかと思います。

では、事務局の方からも連絡はないですか。

◎事務局

最後に今後の予定ということでお知らせいたします。本日、皆様からいただきました貴重な意見を踏まえまして人口ビジョン、総合戦略策定に入りたいと思いますが、皆様からいただきましたご意見につきましては、担当部課に示しながら、総合戦略に反映させられるものにつきましては、専門部会等で検討させていただきたいと思っております。予定では10月下旬までに原案を策定しまして、皆様に人口ビジョンと総合戦略案についてご審議いただきたいと考えております。その後、12月議会の折に、原案を提示いたしまして、2月中に最終原案の審議していただき、3月議会に報告という運びとなります。

次回の策定委員会ですが、人口ビジョン案、アンケート結果等につきまして審議を予定しております。日程として皆様よろしければ、24日か25日で事務局の方で調整をさせていただきたいと思っているんですけれども、よろしいでしょうか。時間は同じ時間です。では以上です。後日連絡させていただきます。

■会長

では、これで第2回の平戸市総合戦略策定委員会を閉じさせていただきたいと思いません。ありがとうございました。

(閉会 15:25)